

SR-M20AP2 V02.10 変更内容一覧

□機能追加・改善内容

No.	項目	内容
1	EAPOL-Key再送タイム改善	IEEE802.1X認証のEAP関連設定タイムと無線LANのEAPOL-KEY送信タイムを個別に設定可能なコマンドを追加する
2	外部ノイズ検出時運用改善	ノイズ検出による通信不能事象検出時に、チャネル変更で回避する機能を追加する。 本機能は工場出荷状態で有効になる。
3	5G帯レーダー検出時40MHz動作改善	レーダー検出後も40MHzで動作できるように改善する。
4	40MHz動作時設定改善	無線LANのsecondary-channel設定を自動設定できるコマンドを追加する。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V02.09	本装置にsshあるいはsftpで接続したとき、ネットワーク通信に遅延が発生するなどの影響を及ぼす場合がある。
2	V02.09	ssh接続認証処理中に一度に多くのパケットを受信すると、パケット応答が2000ms以上遅延する場合がある。
3	V02.09	show wlan sta detailで表示される Sinceの欄の値に誤りがある
4	V02.09	show nodemanager logging wlan scanコマンドにてMACアドレス長を越える文字列を指定するとシステムダウンが発生する場合がある。
5	V02.09	bind先の無いLANを定義して動的反映すると、システムダウンする場合がある。
6	V02.09	dirコマンドの引数に280文字以上の文字列を渡すとメモリ破壊が発生し、装置が再起動する場合がある。
7	V02.09	show tech-suppotコマンドを実行すると、出力途中から表示がおかしくなる(文字化けする)ことがある
8	V02.09	diffコマンドでstartup-configとの比較を行うと、差異がないのに差異が表示されたり、場合によってはシステムダウンする。
9	V02.09	無線LANへのパケット中継時、端末未接続状態の無線LANインタフェースに対しても、ブロードキャストパケットが送信される。
10	V02.09	バックアップポート機能使用時、装置起動でバックポート側がstandby状態にならない場合がある。そのため、パケット転送のループが発生することがある。
11	V02.09	日時設定や動的定義変更実施タイミングによって稀にスケジュール機能が作動しなくなる場合がある。
12	V02.09	LANインタフェースに割り当てられていないVIDに対するEther側からのARPリクエストを受信した場合、proxyARPの応答がEther側に送信されない。
13	V02.09	40MHz運用時にht-protectionを有効にしていると、セカンダリチャネルに対してビーコンを送信してしまう場合がある。
14	V02.09	IEEE802.1X認証にて接続不可となる場合がある
15	V02.09	5Gチャネルで運用中にフレーム送信(ビーコンを含む)が停止する場合がある。
16	V02.09	64バイト未満(FCS含む)のA-MSDUを受信して有線LANIに中継した場合、ダウンする場合がある。
17	V02.09	5Gで40MHzBSS開始不可でチャネルスキャン処理を繰り返しているときにofflineを実行すると、他APのセカンダリチャネルであるにもかかわらず、BSSを開始してしまう。 その場合、show wlan statusでは「offline」と表示される。
18	V02.09	DFS機能において、短期間のうちに連続してレーダー誤検出した場合に、全てのチャネルが使用できない状態となる。
19	V02.09	5GHzでチャネルボンディング機能を有効にしているとき、レーダ検出済チャネルをセカンダリチャネルとして利用してBSSを開始してしまう場合がある。
20	V02.09	ANY接続拒否設定時、Probe Requestの応答有無を確認しないSTAからANY接続出来てしまう。
21	V02.09	untag指定の無線LANインタフェースでVLANタグつきフレームを受信した場合に不正に受信・転送がおこなわれる。 また、AP運用時にシステムダウンする場合がある。